

講義名	公務員特別演習（行政職）					授業形態	
担当教員	八木 雅史 / 河辺 有希生	開講期・曜日・時限		前期 金曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード	PSC340

主題と概要

公務員特別演習は本授業を含めて、公務員を目指す経済学部生を対象とする、1年後期（演習 ）から4年前期（演習 ）まで一貫したプログラムである。本授業はその内の公務員特別演習（行政職コース）であり、3年次からは公安職（消防・警察など）コースと分かれているので注意すること。
「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。したがって、公務員受験のライバルは多く、この演習のみで合格できるほど公務員試験は甘くない。また知識をたに増やし、他者からの指図がなければ行動できない人材も求められてはいる。つまり公務員試験には、自ら考え、仲間とともに注目の高い問題に挑戦できる総合的な人間力が求められている（まさに本学が掲げる「ネアカのひのびへこたれず」の精神をもった人材）。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていく。
また本授業が設定する方針は次のとおりです。つまり「法治国家」においてはすべての公権力の行使（国レベルでも地方レベルでも）が、法律の根拠と法律の定めた手続きに従ってのみ行われなければならない。そして、その公権力の行使を実際の現場で担当するのが個々の公務員である以上、公務員になろうとする者は、みずから従うべき法律が何たるかを知らなければならないのである。そのため各種公務員試験においては、法律に関する基本的な知識を問う課題が頻出することになる。
そこで当授業においては、公務員試験において出題頻度の高い憲法、行政法、民法の三つの法律分野について、過去の試験問題などを参考にしてつ、基礎的知識の習得とその根本的 understanding の充実を目指すものである。

到達目標

- (1) 公務員として住民と関わるうえで必要な法律の基礎知識を習得することができるようになる。
- (2) 公務員として要求されるコンプライアンス精神の涵養を図ることができるようになる。
- (3) 法律の執行者として、行政所等の行政事務に携わる能力を身につけることができるようになる。
- (4) 公務員受験に必要な憲法、行政法、民法の基礎知識を身につけることができるようになる。

提出課題

毎回授業時に、次回授業内容に関する過去の公務員試験問題を宿題として配付しておくので、次の授業までに自分で学習してきて授業中の質問に答えられるようにしておくこと。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

宿題として前回授業で配布しておいた過去問については、授業の進み具合に応じて、授業中受講生に順次質問しながら解説していくつもりである。そのテーマについての自分の理解度をもう一度確認し直しておくこと。

評価の基準

普段授業中での積極的参加度や宿題テーマの達成度（60％）、および授業中に数度レポート課題を出すので、提出されたレポートの評価（40％）による総合の評価にしたがって行う。

履修にあたっての注意・助言他

公務員は、いつの時代でも人気の職業であり、したがって競争も激しく、安易な気持ちで合格できるものではないことを、肝に銘じて授業を受けてください。したがって次のような指針に従って受講するようにしてください。
・本クラスは、真実に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。理由なく遅刻・欠席しないこと。
・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
・学内の公務員試験対策講座（3年生から始まる有料講座）等の受講、もしくはは外部専門学校の受講（ダブルスクール）を強くお勧めする。
・「基礎技能3」以外の関連する正課授業も、順次、履修することが望ましい。
法入門、経済学入門、政治学、財政学、地域まちづくり概論、業界研究（官公庁）、民法1・2、憲法、行政学、地方行政論、地方財政論、経済学、マクロ経済、マクロ経済学 など
当授業においては、憲法、行政法、民法の基本的な理解を提供するものにすぎず、後は自ら入手した自問問題をどれだけ繰り返し行ったか、はじめて受験に役立レベルに達するかどうかが決まります。授業時配付のレジュメ冊子や各自購入の自問問題を使って、毎回授業を受けるために予習しておくのはもちろん、授業終了後には問題集を使って、繰り返し繰り返し授業内容の復習をするように心がけてください。

教科書

・使用しない。

参考図書

・なし。

その他

教科書は使用しません。
憲法、行政法、民法の市販の問題集を購入しておいて、授業内容の反芻に役立ててください。
また、その他の必要な資料も、そのつど授業中に配付します。

授業計画

- ガイダンス、「働くこと、キャリアプラン」
予習内容：自分のキャリアプランとして公務員を選択することの意義を、自分自身あるいは家族等と話し合ってから熟慮してください（120分）
復習内容：ガイダンスを受講したうえで、改めて公務員を目指すことの意義を見つめ直してください（120分）
- 教養演習＋行政に関する法律（憲法）
予習内容：あらかじめ配布された憲法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：教養演習で学んだことを解に落ちるまで復習すること、学んだ憲法の内容の復習（120分）
- 教養演習＋行政に関する法律（憲法）
予習内容：あらかじめ配布された憲法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：教養演習で学んだことを解に落ちるまで復習すること、学んだ憲法の内容の復習（120分）
- 教養演習＋行政に関する法律（憲法）
予習内容：あらかじめ配布された憲法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：教養演習で学んだことを解に落ちるまで復習すること、学んだ憲法の内容の復習（120分）
- 行政に関する法律（憲法）
予習内容：あらかじめ配布された憲法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：本日学んだ憲法の内容の復習（120分）
- 面接練習
予習内容：公務員の行う様々な仕事の内容をネット等で調べておくこと（120分）
復習内容：本日の実務者講義の内容を十分に検討すること（120分）
- 面接練習
予習内容：面接でどのような質問にも的確に応えられるように、公務員志望動機を考えておくこと（120分）
復習内容：本日の面接練習を振り返り、面接者から指摘されたこと等の内容を十分に検討すること（120分）
- 予習内容：自分の参考書を使ってSPI問題の練習をしておくこと（120分）
復習内容：本日学んだSPIの練習課題を十分に復習すること（120分）
- 予習内容：自分の参考書を使ってSPI問題の練習をしておくこと（120分）
復習内容：本日学んだSPIの練習課題を十分に復習すること（120分）
- 0 教養演習＋行政に関する法律（憲法）
予習内容：あらかじめ配布された憲法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：教養演習で学んだことを解に落ちるまで復習すること、学んだ憲法の内容の復習（120分）
- 1 教養演習＋行政に関する法律（行政法）
予習内容：あらかじめ配布された行政法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：教養演習で学んだことを解に落ちるまで復習すること、学んだ行政法の内容の復習（120分）
- 2 行政に関する法律（行政法）
予習内容：あらかじめ配布された行政法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：本日学んだ行政法の内容を十分に復習すること（120分）
- 3 行政に関する法律（行政法）
予習内容：あらかじめ配布された行政法のレジュメや自分の参考書を熟読し、過去問の解答を用意しておくこと（120分）
復習内容：本日学んだ行政法の内容を十分に復習すること（120分）
- 4 面接練習
予習内容：面接でどのような質問にも的確に応えられるように、公務員志望動機を考えておくこと（120分）
復習内容：本日の面接練習を振り返り、面接者から指摘されたこと等の内容を十分に検討すること（120分）
- まとめ、振り返り
予習内容：これまでの当授業の内容を振り返って、理解が不十分であったり、疑問点があれば整理のうえ授業中に質問する準備をしておくこと（120分）
復習内容：全15回の授業を通して配付された資料などを整理しながら、もう一度全授業で学んだことをノートなどにまとめておくこと（120分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマポリシーと関連する。
【法造科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】
「ネアカのひのびへこたれず」の精神をもった人材
知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
創造力、新しい視点と豊かな発想、を持った人材
自主・自らの精神を持った人材
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるため
の基礎能力
また、経済学部特別研究科目のカリキュラムポリシーである「専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目」に当たる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

なし

備考

その他授業運営方法等の急な変更がある場合には、キャンパスクロスの講義連絡を通じて案内を出しますので、日ごろから連絡事項に注意をしておくこと。